

## 小坪神楽をもう一度

—地域の文化発展につくした人（西本武実氏）から学ぶ—

- 1 学 年 第4学年〔前期〕
- 2 主題名 地域のために〔4－〔5〕〕
- 3 ねらい 小坪神楽を再開させようと奔走した西本さんの気持ちを考えることを通して、郷土の文化を大切に、郷土を愛する心情を育てる。
- 4 資料名 「小坪神楽をもう一度」
- 5 展 開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 神楽について説明を聞く。 ○ 祭りに参加したことがありますか。 ○ 神楽について知っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ある。</li> <li>・ よく知らない。</li> <li>・ 見たことある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の祭りや神楽の写真を提示して資料への興味付けを図る。</li> <li>○ 小坪神楽について簡単に説明する。</li> </ul>
展 開	2 資料「小坪神楽をもう一度」を読んで話し合う。 ○ 西本さんがみんなに神楽を再開させようと呼びかけたのはどんな気持ちからでしょう。 ○ お巡りさんから許可がないと神楽はできないと聞き、西本さんはどんな気持ちだったでしょう。 ○ 福岡まで行ったのに、情報局が休みだと知って、西本さんはどんなことを考えたでしょう。 ◎ 63年前を思い出しながら神楽を見ている西本さんは、どんな気持ちでしょう。  3 自分達の生活を振り返って話し合う ○ 地域の祭りや行事に参加した時どんな気持ちでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんばっている小坪の人たちを何とか喜ばせたい。</li> <li>・ 小坪の人たちの楽しみを取り戻そう。</li> <li>・ 大変だ、知らなかった。</li> <li>・ 今さらやめるわけにはいかない。</li> <li>・ 許可がもらえるかな。</li> <li>・ 急いで許可をもらいに行こう。</li> <li>・ もうあきらめるしかないのか。</li> <li>・ 何とかしなければ。</li> <li>・ みんなが待っている。</li> <li>・ 絶対に許可をもらって帰るぞ。</li> <li>・ あの時がんばってよかった。今もみんなが喜んでくれている。</li> <li>・ これからも続けられるといいな。</li> <li>・ ふるさとってやっぱりいいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 当時の社会の様子について説明しながら資料提示をすることによって、小坪の人たちのことを思う西本さんの気持ちを考えさせる。</li> <li>○ 予想外の展開で困惑しながらも、再開に向けて取り組もうとする西本さんの熱意を感じ取らせる。</li> <li>○ 小坪のみんなのことを考え、何としても許可をもらおうと決心した西本さんの気持ちを考えさせる。</li> <li>○ ずっと神楽を見守り、これからも小坪の発展を願う西本さんの気持ちを通して、ふるさとを思う気持ちにせまらせる。</li> <li>○ 地域で活躍されているゲストティーチャーから話を聞き、これからも地域の行事に参加しようとする意欲を高める。</li> </ul>
終 末	4 教師の話聞く。 （地域の祭りのVTRを見る）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の行事っていいな。</li> <li>・ これからも参加しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の祭りが続いているわけを考えさせながらVTRを見せる。</li> </ul>

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

祭りは子どもたちにとって身近な伝統行事である。御輿や囃子、太鼓、幟などのにぎやかな喧噪の中、人々の楽しそうな顔が行き交う情景は、ほとんどの子どもたちが見たり、参加したりしたことがある。このような地域の伝統行事が今まで受け継がれてきた理由や努力に視点を当てることにより、地域の人たちが、みんなの幸せや繁栄を願って受け継いできたことを理解させ、自らも積極的に関わり、大切にしていこうとする心情を育てたい。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア 実施する時期

各地域のお祭りの時期や、社会科の「昔から伝わる行事」に関わらせて本資料を扱うと効果的である。

#### イ 興味付けの工夫

資料は「小坪神楽」という限定された場面であるが、各地域の祭りを彷彿させる「やぶ」や「御輿」「太鼓」等、自分たちの地域の祭りの特色と関わらせるのもよい。

#### ウ ねらいのせまり方

主人公の西本さんの具体的な行動に触れることにより、「神楽」を復興させたいという主人公の熱意を感じ取ることができるであろう。そして、中心発問での話合いにより、その熱意のもとにあるふるさとを思う気持ちに気付かせたい。

#### エ 展開後段の工夫

資料は、回想場面を中心に構成されている。しかし、中心発問では、現在の西本さんのふるさとを思う心情を話し合うようにしている。このことにより、資料と児童自身の生活を関わらせながら自らの地域に対する思いがもてるようにしたい。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 体験をもとにした導入

祭りでの経験を発表させる等により、資料への興味付けを図るのもよい。また、祭りの写真等を提示するのもよい。

#### イ 補足説明と板書の工夫

資料が長く、生活からかけ離れている戦後の話なので、適宜説明を加えながら読み聞かせるとうよい。あらかじめキーワードとなる事実や様子を短冊などで用意し、西本さんの苦労を分かりやすく伝える工夫をするとよい。

#### ウ 繰り返し発問

3番目の発問では、神楽を舞うための許可を得るために数々の壁にぶつかりながらも、小坪の人たちの願いに応えようとする西本さんの心情を考えさせ、「なぜそこまでしようとしたのか。」等の繰り返し発問を行い、ねらいにせまらせたい。

#### エ ゲストティーチャーの活用

地域の行事や祭りに直接係わりのある方をゲストティーチャーとして招くことにより、子どもたちが楽しく祭りに参加することが地域の人々の願いであることを知らせ、参加への意欲につなげるとよい。

#### オ VTRを活用した終末

地域の祭りをVTRで写し、祭りの雰囲気や漂わせる等、余韻のある終末を工夫するとよい。